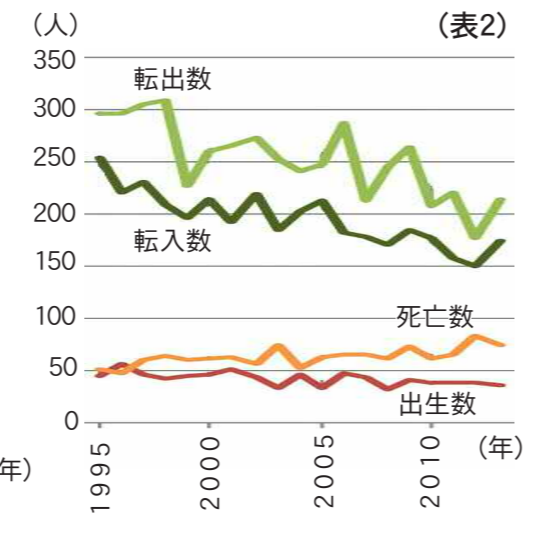
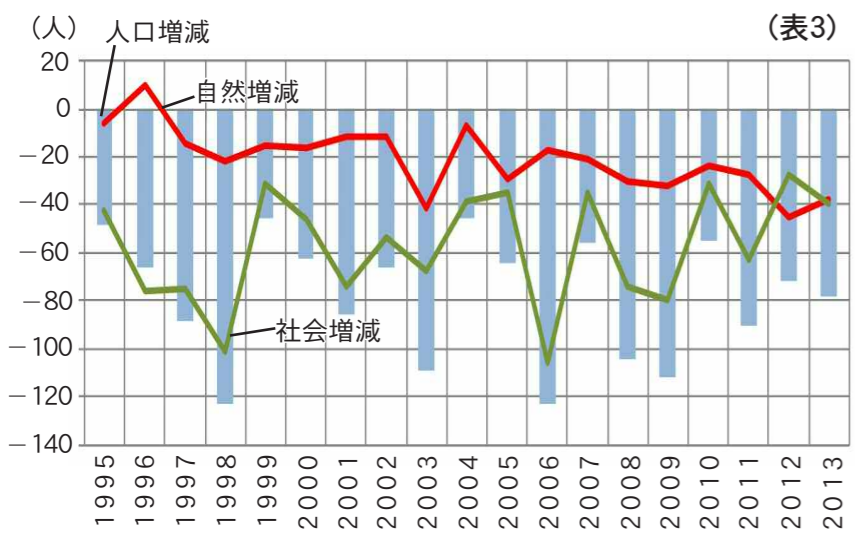


# 小清水町まちづくり 町民アンケート結果報告

## ～小清水町人口ビジョン、 小清水町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定～ (第2回)



社会増減が続いている状況の中で、どのように人口が移動しているのでしょうか。2012～2013（平成24・25）年の2年間で移動状況を見ると（表4）、15～19歳、20～24歳で大きく移動しており、特に札幌市や

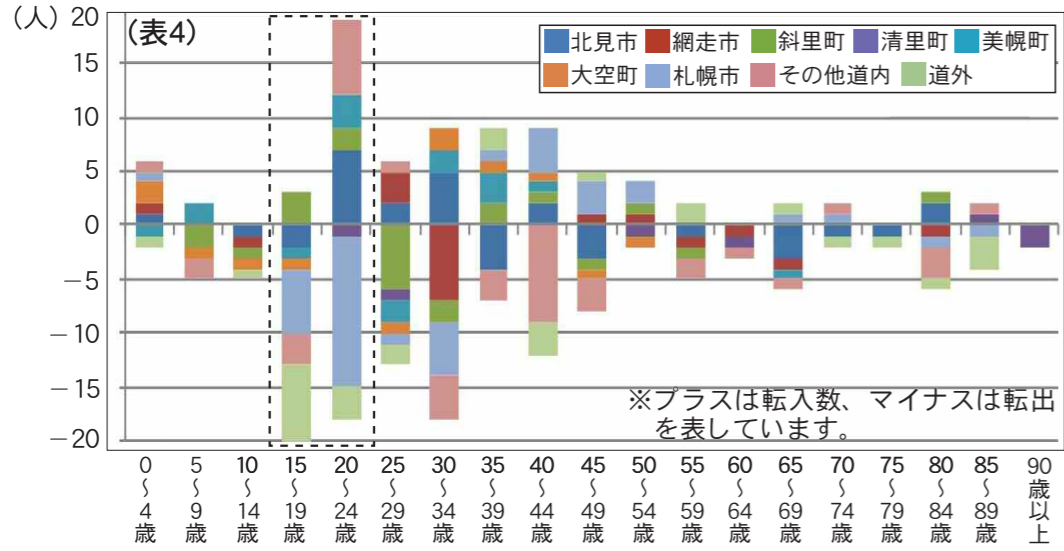
### ◆直近の転入・転出状況は？

次に、表3では出生数と死亡数の割合で判断する「自然増減」と転入数から転出数を引いた数で判断する「社会増減」の推移を表している。自然増減は、1996（平成8）年に出生数が死亡数を上回る「自然増」となり、以降「自然減」が続いています。社会増減をみると転入者数が転入者数を上回る「社会減」が続いています。

表2は、近年の出生・死亡数、転入・転出数をグラフにしたもので、出生率は出生数の低下・母親世代人口の減少の影響により緩やかに減少しています。また、死亡数は高齢者数の増加に伴い増加傾向にあります。転出数・転入数は人口減少の影響もあり右肩下がり状況ですが、転出数が多い状況が続いています。

### ◆出生・死亡、転入・転出の推移について

2013（平成25）年に公表した報告書によると、小清水町は今後急激な人口減少を続け、2040（平成52）年には3335人（現在から38%減少）になると推計されています。



道外への転出超過が大きくなっています。これは、高校や大学・短期大学などの卒業と就職が関係しているといえます。他方で25～29歳で斜里町に、30歳～34歳の階級で網走市に転出数が多いことがわかります。

### ◆小清水町の人口を減らさないために必要な施策は…？

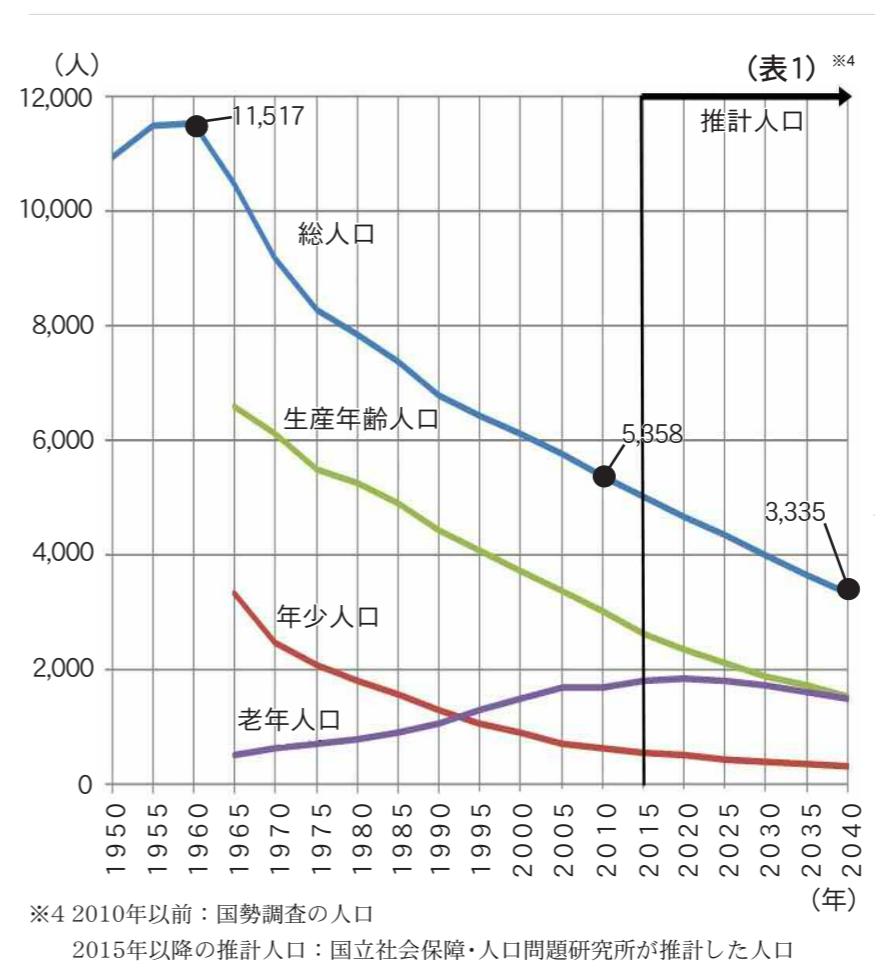
このような状況を踏まえ、今後、小清水町はどのような施策が必要になってくるのでしょうか。5月に実施した町民アンケートの質問事項には、「自然増（出生数増加）に向けて取り組むべき施策」・「社会増（転入増加・転出減少）に向けて取り組むべき施策」・「地域の活力維持に向けて取り組むべき施策」について、それぞれ必要だと思う施策3つを選択していただきました。

### ◆次のページではこれらアンケートの結果と具体的な施策のアイデアを掲載します。

（多くの施策アイデアが寄せられましたが誌面の都合上、全てを掲載することができませんので、主なものを掲載させていただきます。）

### 小清水町の人口推計

先月号では、「人口ビジョン」及び「総合戦略」の概要、町民アンケートの回答状況、居住意向・施策の重要性について掲載しました。今月号は、小清水町の人口推移とアンケートにより回答をいただいた人口を減らさないためのアイデア等について掲載します。



また、<sup>※1</sup>生産年齢人口は減少傾向が続き、2040年には老年人口と同程度になると推計され、<sup>※2</sup>年少人口は、出生数の低下等により、今後この傾向は続く見込まれます。一方で<sup>※3</sup>老年人口は、生産年齢人口が順次老年期に入り、また、平均寿命が延びたことから増加を続けていきます。

※1 生産年齢人口：生産活動に従事できる15歳以上65歳未満の人口  
 ※2 年少人口：0歳～14歳の人口  
 ※3 老年人口：65歳以上の人口